

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390800102		
法人名	社会福祉法人 菊寿会		
事業所名	グループホーム 明日葉		
所在地	熊本県 山鹿市 菊鹿町 長 529番地		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	平成27年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本3丁目13-12-205号
訪問調査日	平成27年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな山間の自然あふれる中、木造平屋建ての環境にやさしい「地中熱」を取り入れた住まいである。また、建物の周りには栗園があり小鳥のさえずりも聞こえ、自然を満喫する事が出来る環境である。地域や地域住民との交流も定着しており、地域の中で住み慣れた生活を送られている。利用者のご家族とも信頼関係も深まり、ご利用者と一緒楽しめるような企画を実施している。ご利用者が自然の環境の中で、ゆったりと楽しく暮らして頂けるような雰囲気作りを心がけて、支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時より「私も、あなたも、地域の中で共に輝いて暮らしたい」とする職員のケア規範が、地域の中で生き生きとした暮らしへと反映させている。母体施設に隣接するというスケールメリットや地域活動の盛んさをホーム活動に直結させ、職員のアイデアを生かした行事や外出支援は豊かな生活の礎となっている。職員は改善意欲も高く、外を眺めてもらいたいとして居室前へのベランダ設置や、農園周囲の環境整備が入居者の潜在能力の発揮として生かされ、発語困難な状況には職員の工夫したケアが発語を引き出すばかりか食事意欲へと副次的な効果が表れている。今年度初めて全職員での話し合いと家族の思いに応えた看取りケアの実践が人生の最終章をホームを選んでくださったことへの感謝と自信に繋げており、最高齢96歳という現状に、今後ますます職員の持つケア力が発揮されるものと期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は母体の理念と共に明日葉ホール内に掲示している。また、明日葉の理念は、開設当時より、スタッフのロッカーに貼り、この理念に基づきそれに沿った支援を行っている。	利用者の“らしさ”に注視し、楽しく暮らしてもらうための個別支援の充実に向け、理念を想起させながら話し合っている。今年は理念を取り入れたパンフレットを作り直し、啓発の一環としている、年間の事業計画と目標を掲げ、進捗状況の話し合いや最終評価を通じ、振り返っている。日常生活での残存能力の発揮や地域の中での生き生きとした暮らしぶりに、「地域の中で共に輝いて暮らしたい」をケア基本としたホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の収穫祭に手作りおやつを出品し収益は地域に活用して頂いている。2ヶ月に1回の交流会には、近隣地区より参加して頂いている。地区の美化作業にも参加している。	自治会へ加入し、毎月早朝からの清掃活動への参加や、入居者の生活圏であった地域サロン(数カ所)、地区の敬老式典・収穫祭への参加、ホーム内での地域住民との交流会(立地的な面から送迎も行う等細やかな心配りもある)等地域活動の盛んな場所という条件を生かしながら、多岐に亘り交流している。芋ほり(ボランティアの好意による)や、台風発生による倒木処理に共に取り組む等近隣からも優しく見守られながら共生している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域のサロンや中学校で、認知症の症状や対応の仕方について、またリズム体操や口腔体操を紹介することを計画実施している。(介護相談窓口、福祉用具についても)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や助言を頂いたら、スタッフに報告し利用者が過ごし易い環境に繋がっている。地域の方の意見を多く聞き入れる為に今年から3名の民生委員様に参加して頂いている。	充実したメンバーにより定期的に開催され、ホームの情報発信のみならず、地区のサロンの在り方検討、嚥下食の試食、火災避難訓練を組み入れる等創意工夫している。地域から行政への提案(要望)や、委員からの意見を受けスロープの設置に繋がる等有意義な会議である。この介護を通してホームと参加委員との良好な関係も、野菜の苗の持参や、ホタル狩りの情報から観賞にとの提供が入居者の楽しみ事に繋がる等に表れており、サービスに具体的に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市開催の説明会に参加して、市の計画や意見を聞いている。ケアマネの研修等に参加しケアプラン作成に繋がっている。また、ケアプランを提出し助言を頂いている。	運営推進会議参加時・実地指導の他、地域密着型事業説明会等に参加しながら情報発信に努めている。また、行政へケアプランを提出し、アドバイスを等協力関係を築いている。地区のサロン閉鎖への対応等社協との密接な関係も作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設外研修に参加の機会がなかったが、今回ある研修には、必ず参加する予定である。毎月、母体での身体抑制廃止委員会にて「絶対拘束はしない」を各部署と確認している。特に言葉による抑制には、スタッフ全員で、日々注意をはらっている。	身体拘束廃止に向けた法人及びマニュアルを整備し、法人内身体抑制廃止委員会の中での事例検討に参加しながら、拘束の無い・しないホームとして全員が意識を強化している。職員の「ちょっと待って」等気になる言葉使いにはその場で注意喚起し、転倒の危険性に家族への説明と了解を得てセンターマットを使用するケースはある。入居者個々の外出傾向・帰宅願望等早めに察知し、車いすと一緒に散歩に出たり、畑での草取り等を支援している。玄関の開錠や居室前にバルコニーを取り付ける等自由な生活環境が作られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフのストレスにより、虐待等が起こらないように、日々スタッフの健康状態や精神面に悩みがないか心のケアを心がけている。また、ストレスケアの全体研修を法人としても取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所者に後見人制度を受けられている方が1名。本年度は、研修の機会はなかったが、認知症サポーターの研修の中で行政の取り組みとして話を聞いた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書と契約書について説明を行い質問を受けているが、説明後にも再度、疑問がないか時間をとり聞いている。納得された事を確認して同意をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、7月にご家族会を行い、日頃のケアの在り方等を説明している。その後、担当者と個別に意見交換を行っている。また、ご家族からの相談等も気軽に話した頂けるような施設の雰囲気づくりにも心がけている。	担当職員による報告書による行事や状況の発信及び2ヶ月毎のホーム便りでの情報が家族との関係構築として生かされている。訪問時の他、家族会及び運営推進会議が問題提起や要望の聞き取りの場としてケアサービスに反映させている。入居者には日々のかかわりの中で聞き取りし、外出(ドライブ)支援に繋げている。また、事案によってはリスク委員会の中で法人全体で検討することとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回、全スタッフの会議で意見や提案を聞いているが緊急な場合は、ミニ会議を行い申し送りノートにより全スタッフに報告し実践に活かしている。	法人での職員会議、グループホーム会議及び問題発生時のミニ会議等職員の意見や提案を聴く機会が多く、行事や活動へのアイデアが日常生活や外出支援に反映されている。管理者・ホーム長を中心として風通しの良い関係が築かれ、職員の提案に随時対応している。また、個々面談(年2回)を行い、職員のモチベーションに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を取り入れており、年2回(上期、下期)個別面接を行い、本人の意欲(目標)の達成感等を聞いたり助言を行っている。また、業務がスムーズにいくように就時間業の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体施設の内部研修には、毎月参加している。外部研修では、実践者研修 実習指導者研修 グループホーム勉強会に参加しスタッフのスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	菊池山鹿ブロックグループホーム研修会に参加し、担当グループが用意した研修内容について勉強したり、意見交換・情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本年度新規利用者3名。新規利用者を受け入れる場合は、ご家族・ケアマネジャー・利用されていたサービス事業所より情報を得る事で入所時より、不安なく生活した頂けるようにケアの統一を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時に困っておられる事や不安な事を聞いて、出来るだけ解消できるように支援の提案を行い信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の段階で、本人及びご家族が一番必要としていることをスタッフの共通支援とし必要なら、以前利用していたデイサービスを訪問したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力や身体機能に応じて、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器お盆拭き等できる事をしてもらう事により共同生活の一員として支援し合う関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、帰省に協力して頂きながら、ご家族との絆を保ちつつ、全員での外出や行事の時は、ご家族にも声掛けして参加協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のサロンがなくなり、定期的とはいかないが出身地や馴染みの地域への訪問やドライブに出かける事により喜びがみえている。	家族・友達の訪問や自宅へ柿もぎやみかんちぎりに出かけたり、盆・正月の帰省、葬儀参列、地域高齢者との交流等これまでの関係性を継続している。また菊人形見学やホームでのホテル観賞、農園での作業等家族や地域住民の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の意気投合も見られる反面トラブルが起きる時もある。その為に個別ケアを重視して、ご本人のやりたい事を見い出したり希望される所に出かけたり全員で楽しめるゲームなどを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去されてもご家族と連絡をとり、利用者の面会を行っている。また、ご家族より相談があれば相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、本人の思いや希望を聞き、出来るだけ思いに添った支援を行っている。しかし、理解が低下されている利用者の思いを聞くことが困難な場合は、その方の立場に立った支援に心がけている。	開設より5年の経過とともに認知症状の進行も見られるという現状に、食後テーブルを囲んで話を聞き取りする等個々の思いを引き出すよう努力をしている。理解の低下に本人の立場に立って家族と話し合い、時には職員が代弁しながら思いを実現させている。「今日はどこかに行かないのかなあ」の独り言に、ドライブに出かける等、何気ない言葉も聞き逃さず思いがどこになるか真意を思考しながらサービスに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及びご家族に聞いたり、担当ケアマネージャーや地域の方に聞いて情報収集を行っているものの、個人情報になる為に以前より情報を得る事が難しくなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、利用者の暮らしが安定しており、スタッフも心身状態等の把握が出来る為本人の有する機能に応じた支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス時に全員のアセスメントを行っている。また、更新時においては、ご家族とスタッフとモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。状態の変化があった場合はケアプランの見直しを行っている。	日々カードックスにプランを挟み、総合的な援助での変更点はその都度朱書きし、毎月担当職員を中心とした入居者毎の話し合い等職員の観察・気づきをプラン変更反映させている。家族の訪問に合わせ、本人・家族・ホーム長・ケアマネジャーとの担当者会議を開催しており、家族・本人の意向を反映したプランである。定期的には1年を目安とした再作成、介護度変更や退院時の見直し等現状に即したプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケア記録に生活の記録を行い、日勤者⇄夜勤者の申し送り簿により情報交換を行っている。また、リスクに繋がると思われる事は申し送りノートまで記入したり写真をケア日誌に載せる事で事故防止に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中の利用者への面会やそのご家族との連絡や要望等で施設ができる範囲であれば柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力を得て、地域に出かけ自然を満喫している。近隣地域のサロンへ参加し、楽しい時間を過ごして頂いている。地域の方と声掛け合うことで、暮らしの豊さに繋がるような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医を重視しご家族の協力を得ながら受診を行っている。又スタッフが医療機関へ健康状態や日々の暮らしについて情報を提供している。受診が困難な場合は、訪問診療を依頼して健康管理に努めている。	協力医療機関をかかりつけ医とされたきた入居者が殆どであり、月1回の訪問診療が行われている。その他のかかりつけ医については、現在家族による受診が支援され、結果についてはホームと情報が共有されている。職員は日々の健康観察に加え、口腔ケアにも力を入れており、訪問歯科を採用している。入居者の中には毎食後の歯磨きの重要性を理解され、「歯磨きしたね〜?」と、職員の歯磨きを確認される方もおられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェック表及び検温板により、状態の変化がわかるようにしている。異常が見られた時は、主治医に相談し指示を受けたり、母体の看護師に相談 協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、施設より搬送し、本人及びご家族が安心されるように情報を提供する。また、面会を行い利用者の不安を出来るだけ最小限になるよう心掛けている。医療機関よりの情報を得て、ご家族とも相談を行い、お互いの関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りに対しては、医療を必要とする場合は難しいが、老衰の場合は受け入れが可能であり、本人の意思やご家族の考えを十分に検討し支援を行っていく方針がある。本人ご家族の思いに応える終末期を支援する為に「意思確認書」の作成を計画中である。	入居時にリスクと重度化した場合、継続した医療支援の必要がなく、本人・家族の意向があれば検討を行いホームでの看取りも可能であることを説明している。ターミナルケア(精神的・身体的な対応)について研修会が開催され、職員の共有が図られている。今年度、本人・家族の意向を受け、医師や法人厨房によるターミナル食支援の協力を得、近親者に看取られながらお一人の方が最期を迎えられている。職員はホームでの最期を選んでくれた事への感謝を語っている。	法人ホールで行われる初盆法要の実施や1周忌に職員が自宅を訪問してお参りするなど、これまでのご縁を大切にされている。今回の看取り支援を踏まえ意思確認書の作成が計画されており、今後も本人・家族の思いを大切にしたい支援が継続されることに期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のケアの中でベテラン介護士の指導を受けたり、緊急の場合は、母体看護師や幹部職のスタッフの協力を受ける事ができている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体が福祉避難所でもある事から、真空の備蓄食の準備があったり非常食としてインスタント食品を準備している。7月の昼間想定火災避難訓練では、スロープを使った避難誘導を行った。8月の台風では、早めに緊急幹部会を開き災害対策を立てたことにより、最小限の被害で済んだ。	法人が福祉避難所であることと、高台という立地から災害対策への意識が高く、炊き出し訓練や職員の食備蓄も3日分を確保し、職員会議の中でのカップ麺食は、防災の意識強化の機会としている。また、この夏の台風接近時には、緊急幹部会を開催し、当日出勤できない事を想定した対策が検討されている。その中でホームでは、雨戸の全閉、日勤者とホーム長の待機、停電に備えた朝食の準備などが対策とされた。今年度は運営推進会議の後に避難訓練が実施されており、年度末に2回目の訓練が予定である。	管理者は今後、福祉避難所(法人として)としての訓練についても検討を重ねていきたいとしている。昨今の自然災害は予知できぬ被害も多く、今後の取り組みに期待がもたれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活のケアの中で個人のプライバシーを尊重する言葉かけを行っているが、耳の遠い利用者に声が大きくなっている。スタッフ同士で注意しあいながら1人ひとりを尊重できるように心がけている。	基本方針の中に個人の尊重を掲げ、法人全体やホーム内で個人情報・プライバシーも含めた研修会により周知を図っている。入居者の呼称は苗字にさん付けを基本としているが、同姓や呼ばれ慣れている下の名でも対応している。面会簿は個別記入で管理し、職員の守秘義務については、入・退職時だけではなく毎年誓約書を交わし指導が行われている。	入居者は歌を歌いながらの手作業など穏やかな時間を過ごされていたが、食事介助中の声かけやスピードについては、気になる光景も見られた。職員の気づかない場面でも周りの入居者にも不安を与えていることないか？など振り返る機会を行いながら支援されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや自己決定ができ易いようにわかり易く説明しているが、理解力の低下がある利用者に対しても思いが出やすいように言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を把握して、出来るだけその方の希望に添えるように支援している。(台所の手伝い、プランターの手入れ、母体への散歩)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面を行い、一緒に身だしなみを整えている。外出や行事の時は、お化粧や洋服もおしゃれをして頂いている。普段と違い喜びの笑顔が見られる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好むを把握しており、日々の料理の材料に取り入れている。また、野菜の皮むきやお茶碗、お盆拭きをお願いしている。	季節感を取り入れながら家庭的な味を提供する日々の料理は、入居者の楽しみとなっている。菜園は、家族・地域の協力により年間を通して様々な収穫が得られ食材への活用はもとより、入居者の食への関わりを広げている。継続されている正月前のおせち料理内部研修会、敷地内の花の開花時期には庭先での食事、手作り弁当を持っての外出など食へのこだわりや楽しみに繋がりたいとする取り組みが、聞き取りや記録からも数多く確認された。	職員は入居者と一緒に同じ食事を摂りながら、検食簿にもその時の状況がわかるようなコメントが残されている。今後も、主婦の経験やアイデアを活かしながら楽しい食事支援の継続に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養については献立のバランスを考えながら利用者の希望をお取り入れている。カロリー計算は年1回母体の管理栄養士をお願いして振り返っている。嚥下障害の方の形態にも心がけている。(アイトニックゼリー)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に口腔体操を行い食事がスムーズにとれるようにしている。また、食後の口腔ケアの中で異常発見に努めている。異常があればご家族に相談して、受診または往診をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握している。トイレでの自立に向けて、出来るだけ本人の機能を引き出すような声掛けを行っている。(排泄用パットも個々にあった物を準備している。)	日中は基本的にトイレでの排泄を支援し、自立の継続や残存機能を引き出す声かけを行っている。夜間はトイレやポータブルへの誘導、オムツなど個々に応じ支援している。昼・夜の排泄状況について職員間の共有を図り、ふさわしい排泄用品について検討を行い準備している。トイレ内は臭気などなく気持ちよく使用できるよう、環境整備の専任者を中心に掃除が徹底されている。	清潔なトイレ環境に努めているが、感染症の危険からも扉の閉め忘れのないよう徹底される事が必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理の中に食物繊維(さつまいも、牛蒡、麦等)を多く取り入れ便秘予防に心がけている。また、乳製品、果物、青汁の提供も多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、午後に実施。入浴予定者は、入浴前にバイタルチェックを行う。本人の希望があれば毎日でも入浴可能。1対1の入浴でゆっくりと実施している。冬場は保湿に優れた入浴剤を使用し皮膚の乾燥に気を付けている。(5月 菖蒲湯、12月 柚子湯)	毎日入浴の準備を行い、午後を中心に3~4人の入浴が支援されている。入居者の状況によっては午前や失禁時のシャワー浴など随時対応している。拒否される方もおられるが間隔が空くほどのことはなく、家族の中には来訪時に「温泉リハビリだよ!」と、励ましの声かけも行われている。職員は1対1で安全な入浴に努めており、季節によっては菖蒲や柚子湯の他、入浴剤を使って会話を弾ませるなど工夫している。なお入浴剤は湯船で足元が見えるよう、濁りのない物が使われている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設の建物自体が地中熱を利用しており、居室も自然な空調の為に、昼夜過ごし易い環境である。本人が休みたい時はいつでも休む事ができる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報及び内容については、全スタッフが把握しており、臨時薬がある場合でも個々の体温板や申し送り簿に記載し、間違いが起こらないように支援している。また、臨時薬を投与した後は、病状の変化等にもスタッフ全員が確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や特技、思いを日々の生活に活かせるように支援している。テーブル拭きや洗濯物干し、取り入れ、たたみ、収納をお手伝いされている。また、朝食前には、神様参りする事を日課にされている。9時過ぎに体操を30分される事も日課となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	何時でも本人の希望に添えるようにしているが、日々の外出は短時間(買い物等)が主である。また、行事による外出はご家族やボランティアの協力を得て外出している。	法人敷地内にある事業所へ車椅子の方も一緒に散歩に出かけたり、畑の管理や庭先の草取りなど日常的に支援している。今年度入居者がスムーズに野菜の様子を見ることができるよう、畑の入口足場が整地されている。家族の協力としては面会時にホーム周辺を散歩したり、近親者の見舞いや葬儀への参列も実現している。また、地域の協力で近隣道はいつもきれいに管理されており、安全に外出できることに管理者は感謝を語っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠方のご家族が多い為、殆どの利用者より、お図解程度の現金を預かっている。買い物に出かけた時など本人と一緒に支払を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ご家族に健康状態や生活の状況及びお知らせを書いて送付している。また、利用者が書かれたものをお手紙に同封している。電話は、希望時に取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からホールの空間にお花を飾ったり、植物を置いて利用者の精神面の安定に心がけている。また、馴染みの音楽や録画による「心の歌」を聞いて頂くことにより、心豊かに過ごして頂く工夫をしている。	玄関先にはホーム名の明日葉や花苗が植えられ、来訪者を迎えている。リビングホールでは、談笑しながら翌日のイベントに備え里芋の皮むきや、午後からは車椅子をリズムよく揺らしながら渋柿の皮をむかれる方など、一日を通して入居者の集いの場となっている。また、ホールには、地域交流会での共同制作品の掲示が季節感を醸し出している。今年度、居室ベランダの一角にデッキが設置され、入居者は菜園の様子や樹木を眺めながらひと時を過ごすことができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下、ベランダ等に椅子を設置して、いつでも過ごし易い空間を心がけている。さりげない声掛けをしたりして寄り添い、本人の気持ちを聞き穏やかな時間を作る工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋に自分の馴染みの家具やご家族の写真を飾ったり、好きなお花を置くことにより、居心地よく過ごせるよう心がけている。季節ごとに咲く庭のお花を生ける事で我が家に居るような気分を味わって頂けるような工夫をしている。	管理者は昔馴染みの品があることで、早くホームに慣れられることを家族へ伝えており、それぞれの部屋にはドレッサーやテレビ、思い出の写真などが持ち込まれている。また、排泄用品を持参した際衣替えをされる家族、野の草を摘んで居室に飾られる家族など入居後もホームと一緒に居室環境作りが行われている。中には面会時居室に入られた後、ゆっくり寛がれる家族もおられるなど、居心地のよい空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の名札や目印の人形、お風呂トイレなどに表札を掛けてわかり易い言葉で表示している。また、廊下やホールには、危険になるような備品は置かないようにしてリスクの回避を図っている。		